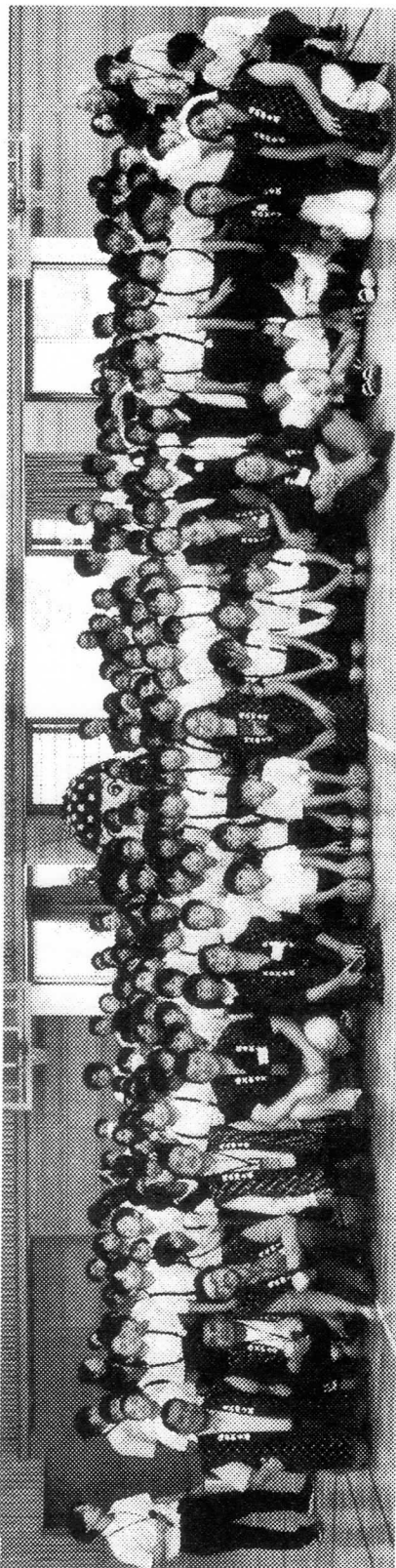


中南米教育者が網引小訪問 岡山大とJICAの研修会



網引小学校（山室和恵校長、児童数213人）で10日、国際交流会が開かれた。岡山大

学が独立行政法人国際交流機構（JICA）と実施する日本の教育を世界の教育者に伝える研修活動の一環。3週間の研修期間で来日している中南米の教育関係者が来校した。

同校が公立小学校のモデル校に選ばれるのは、去年に続いて2度目。この日は、3時間目に5年生の算数の授業見学、4時間目に体育館で児童会が司会進行役を務める交流会が行われた。

最初に、児童会長の鎌倉琉歌さん（6年生）が歓迎の挨拶を述べ、全校児童が校歌と学習発表会で歌う予定の「ふるさと」を披露。続いて、

中南米の教育関係者が児童らと一緒に勝ち残りじゃんけんを英語（ロック・シザーズ・



ペーパー）で行って盛り上がった。

最後に備後緋音頭をつなぐ会のつなぎ人8人とマスコットキャラクター「かすりん」が登場し、全員で輪になって備後緋音頭を踊った。

同校を訪れたのは、ベネズエラやパナマ、コスタリカ、ペルーなど11か国の教育関係者11人で、国の教育機関で指導的立場にある人たちだという。

エルサルバドルのパトリシアさんは、「授業はとても良かった。子どもたちが集中して授業に臨み、全ての子どもが授業に参加していた。教師も、児童が

う的確なサポートをしていた。自国の教育現場ではまだ無理なのですが、参考にさせてもらい、児童生徒を中心とした教育体制に近づけていきます。また、交流会では、伝統的な踊りを地

域の方も子どもたちも大切にしていることが分かった。こうした歴史や文化は、子どもたちが大きくなる時にとっても大切な思い出になると思っています」と話していた。

岡山大学はJICAと協力し、2016年度から、教育学研究科において算数・数学教育に携わる教育省、教育委員会及び教員養成大学などの関係者を対象に、研修を実施してきた。同大大学院の藤井浩樹教授（ESD協働推進室室長）がこれまで、同校で理科の教育モデル校として教育研究に関わってきたことから、長年算数・数学教育をテーマに研究を続けてきた黒崎東洋郎名誉教授と共に、同校へ中南米の教育関係者らを案内した。